

青森県経済統計報告

平成19年8月2日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成19年7月1日現在）..... 1

県人口	1,410,247人	(対前月 870人 減少)
自然動態	361人減少	(出生者数 812人、死亡者数 1,173人)
社会動態	509人減少	(転入者数 1,233人、転出者数 1,742人)

2 本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済は、消費面の弱さが続いているものの、生産面を中心に堅調に推移している。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成19年5月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.8で、前月比0.9%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は99.9で、前年同月比10.0%の上昇となり、7ヶ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用情勢 平成19年5月の定期給与は224,613円で前年同月比2.3%増となった。総実労働時間は154.6時間で前年同月比0.2%減、所定外労働時間は10.3時間で前年同月比23.5%増となった。平成19年6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.49倍で、前月比同水準となった。 ... 3
- (2-3) 物価 平成19年6月の青森市消費者物価指数は、平成17年を100として99.6となり、前月と比べ0.4%の下落、前年同月と比べ1.0%の下落となった。 ... 4
- (2-4) 個人消費 平成19年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが139億3千8百万円で前年同月比2.1%減と3ヶ月連続で減少、既存店ベースでは2.8%減と18ヶ月連続で減少となった。平成19年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,851台で、前年同月比9.2%の減となり、4ヶ月連続で前年を下回った。 ... 5
- (2-5) 住宅建設 平成19年6月の新設住宅着工戸数は879戸で、前年同月比16.4%増となり、3ヶ月ぶりに前年を上回った。 ... 6
- (2-6) 電力使用量 平成19年6月の大口電力使用量は2億1,792万kWhで、前年同月比11.4%増となり、9ヶ月連続で前年を上回った。 ... 6

(3) 景気動向指数（平成19年5月分）..... 7

先行指数	44.4%	(2か月連続で50%を下回った)
一致指数	33.3%	(3か月連続で50%を下回った)
遅行指数	66.7%	(2か月連続で50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成19年7月期）..... 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI	50.3	(前期比2.9ポイント増、初めて50を上回る)
3ヶ月後の景気の先行き判断DI	50.5	(前期比0.3ポイント減、3期連続で50を上回る)

1 青森県の推計人口(平成19年7月1日現在)

【概況】

平成19年7月1日現在の本県推計人口は、1,410,247人で、前月に比べ870人の減少となった。

○自然動態

出生者数が812人、死亡者数が1,173人で、361人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,233人、転出者数が1,742人で、509人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
18.7.1	1,424,530	672,338	752,192	-0.052%	-741	-279	910	1,189	-462	1,345	1,807
18.8.1	1,424,090	672,039	752,051	-0.031%	-440	-217	914	1,131	-223	1,930	2,153
18.9.1	1,423,840	671,898	751,942	-0.018%	-250	-239	923	1,162	-11	2,171	2,182
18.10.1	1,423,412	671,651	751,761	-0.030%	-428	-146	940	1,086	-282	1,590	1,872
18.11.1	1,422,852	671,368	751,484	-0.039%	-560	-259	946	1,205	-301	1,737	2,038
18.12.1	1,422,159	671,025	751,134	-0.049%	-693	-375	860	1,235	-318	1,201	1,519
19.1.1	1,421,519	670,706	750,813	-0.045%	-640	-503	786	1,289	-137	1,212	1,349
19.2.1	1,420,348	670,000	750,348	-0.082%	-1,171	-552	841	1,393	-619	1,099	1,718
19.3.1	1,419,497	669,462	750,035	-0.060%	-851	-393	763	1,156	-458	1,134	1,592
19.4.1	1,412,767	665,701	747,066	-0.574%	-6,730	-465	831	1,296	-6,265	3,722	9,987
19.5.1	1,412,047	665,362	746,685	-0.051%	-720	-474	794	1,268	-246	4,208	4,454
19.6.1	1,411,117	664,842	746,275	-0.066%	-930	-310	1,007	1,317	-620	1,596	2,216
19.7.1	1,410,247	664,306	745,941	-0.062%	-870	-361	812	1,173	-509	1,233	1,742

6月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平10.6	11.6	12.6	13.6	14.6	15.6	16.6	17.6	18.6	19.6
自然動態	出生者数	1,220	1,160	1,142	1,005	967	992	985	831	910	812
	死亡者数	1,041	1,034	971	1,008	1,011	1,045	1,064	1,151	1,189	1,173
	自然増減数	179	126	171	-3	-44	-53	-79	-320	-279	-361
社会動態	県外からの転入者数	1,604	1,554	1,567	1,451	1,406	1,559	1,413	1,434	1,345	1,233
	県外への転出者数	1,566	1,533	1,653	1,658	1,655	1,637	1,729	1,782	1,807	1,742
	社会増減数	38	21	-86	-207	-249	-78	-316	-348	-462	-509

- 1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口(確定値)。
- 2 平成18年3月以降の人口は平成17年国勢調査人口を基礎に推計している。
- 3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。
- 4 算出方法
 県の推計人口 = 前月の人口 + 自然増減数(出生者数 - 死亡者数) + 社会増減数(県外からの転入者数 - 県外への転出者数)
- 5 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

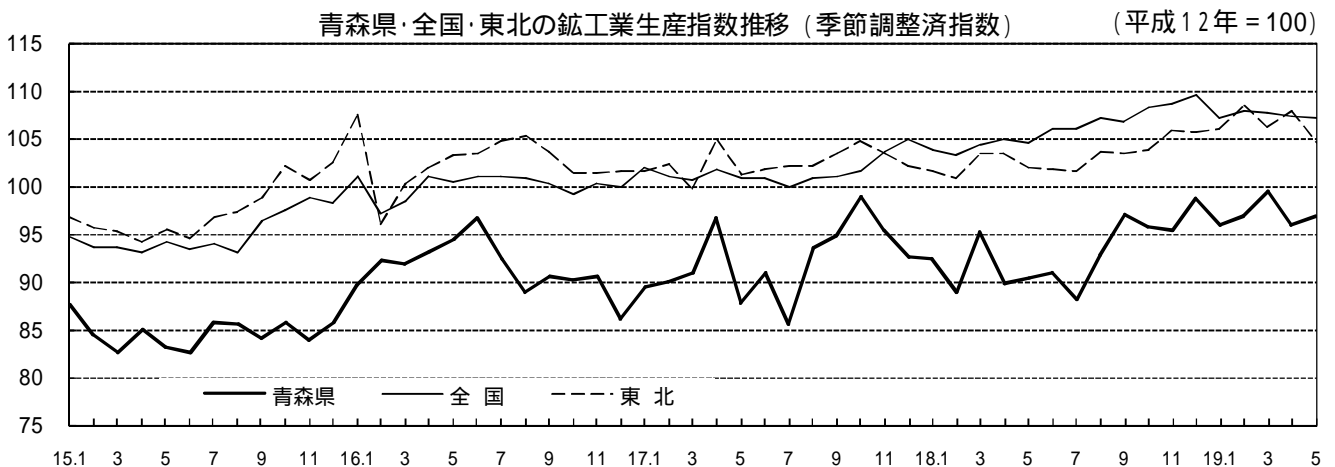
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

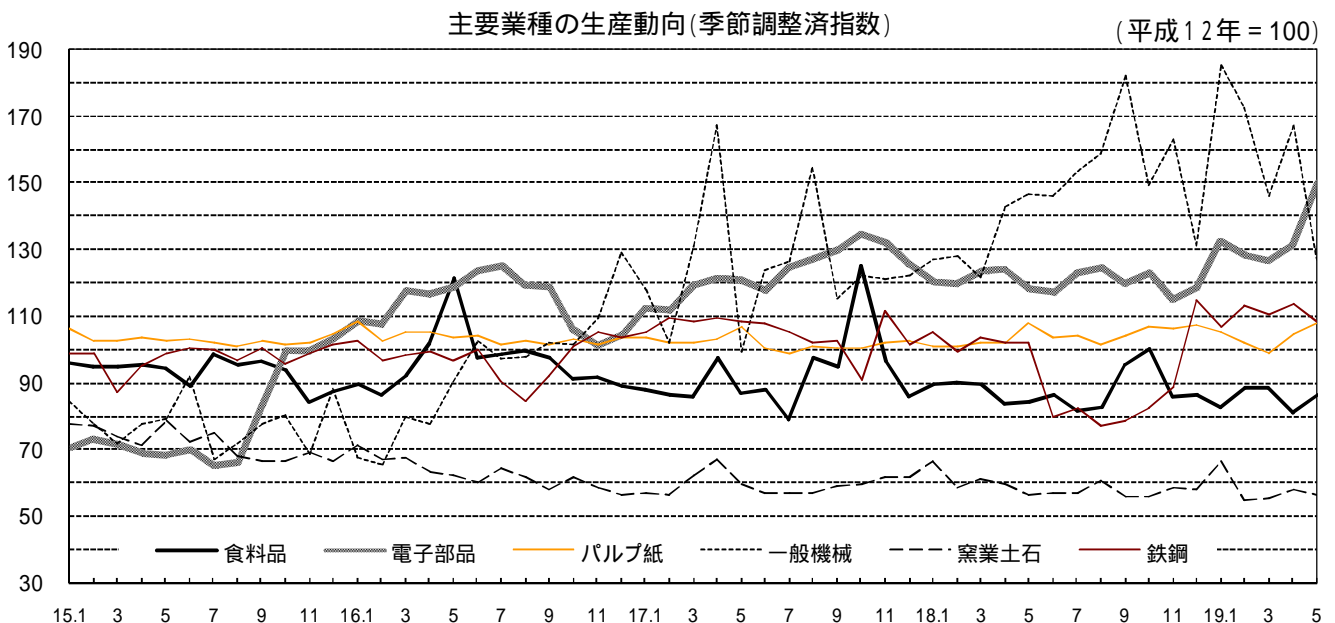
平成19年5月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.8で、前月比0.9%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は99.9で、前年同月比10.0%の上昇となり、7ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、食料品工業、金属製品工業などが上昇に寄与した一方、一般機械工業、電気機械工業、精密機械工業などが低下し、鉱工業全体では0.9%の上昇となった。



業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 +0.9%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	14.4	74.0	一般機械工業	-24.2	-80.6
食料品工業	6.5	45.4	電気機械工業	-7.0	-20.1
金属製品工業	33.2	42.3	精密機械工業	-11.3	-12.2
化学工業	47.4	41.3	鉄鋼業	-4.3	-8.5
パルプ・紙・紙加工品工業	3.3	9.3	輸送機械工業	-7.8	-4.4



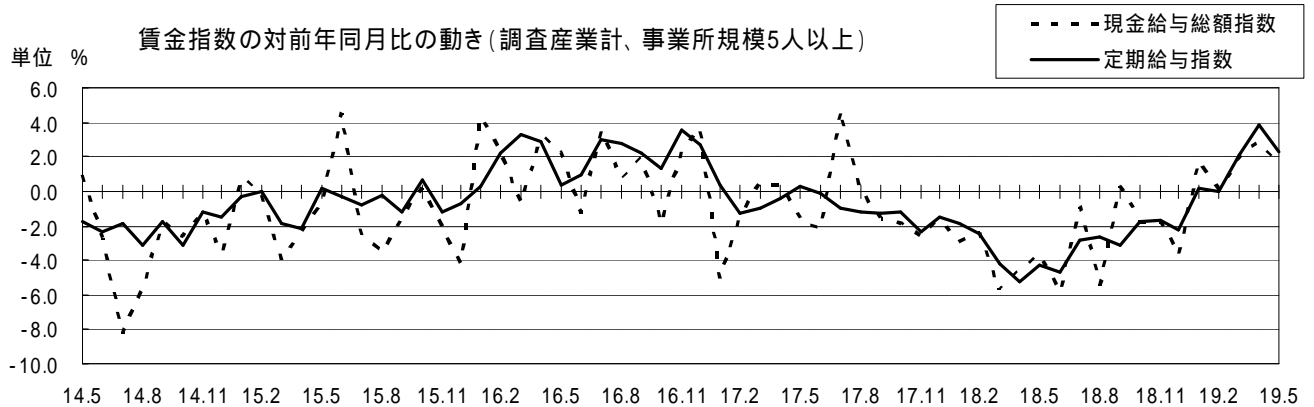
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成19年5月の定期給与は224,613円で定期給与指数(平成17年=100)では97.6となり、前年同月比2.3%増(現金給与総額224,974円、現金給与総額指数82.5、前年同月比1.4%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.7となった。

総実労働時間は154.6時間で、総実労働時間指数は97.0となり、前年同月比0.2%減となった。このうち、所定外労働時間は10.3時間で、所定外労働時間指数では104.0となり、前年同月比23.5%増となった。

平成19年6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.49倍で、前月比同水準となった。

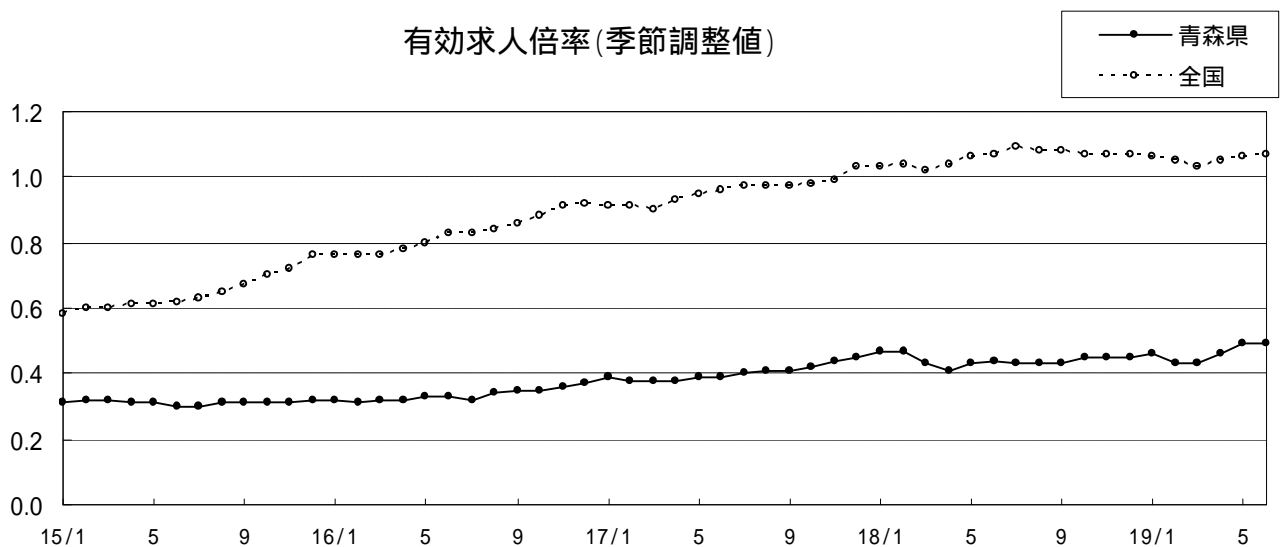


賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	224,974 円	275,148 円	82.5	83.0	1.4 %	-0.2 %
定期給与	224,613 円	268,212 円	97.6	99.3	2.3 %	0.0 %
特別給与	361 円	6,936 円				
総実労働時間	154.6 時間	147.4 時間	97.0	97.7	-0.2 %	0.8 %
所定内労働時間	144.3 時間	136.8 時間	96.6	97.6	-1.5 %	0.8 %
所定外労働時間	10.3 時間	10.6 時間	104.0	100.0	23.5 %	1.0 %

(注) 1. 定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。
2. 前年同月比は指数によって算出している。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成19年6月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が99.6となり、前月と比べ0.4%の下落、前年同月と比べ1.0%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.7となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.6%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.2となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.9%の下落となった。

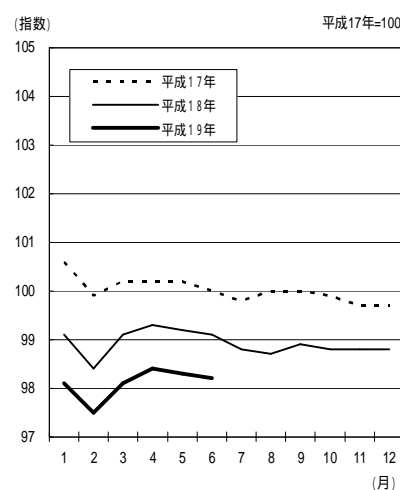
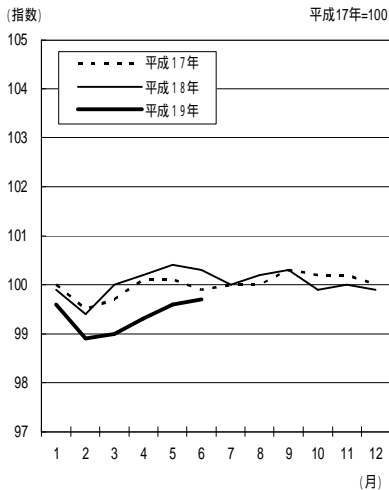
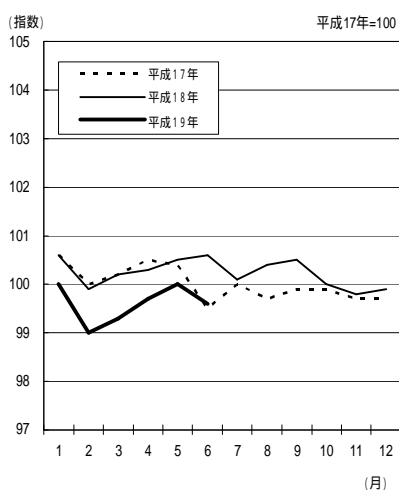
総合指数が前月と比べ0.4%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料などの下落が要因となっている。

総合指数の前年同月比が1.0%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの下落が要因となっている。

図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き

図1 総合指数の動き

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及履物	服及び靴	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	99.6	99.7	99.6	98.2	98.4	98.3	99.6	107.2	92.0	99.6	99.5	100.8	101.2	95.9	100.2	
前月比(%)	0.4	0.1	0.5	0.1	1.3	7.9	0.5	0.1	0.0	0.6	0.3	0.3	0.0	0.6	0.2	
寄与度	0.40	0.09	0.42	0.06	0.37	0.48	0.10	0.01	0.00	0.02	0.01	0.03	0.00	0.06	0.01	
前年同月比(%)	1.0	0.6	1.2	0.9	1.9	6.6	0.2	0.6	1.3	1.3	0.3	0.3	0.6	2.8	0.0	
寄与度	1.00	0.56	1.00	0.57	0.54	0.39	0.04	0.07	0.04	0.05	0.01	0.03	0.02	0.28	0.00	

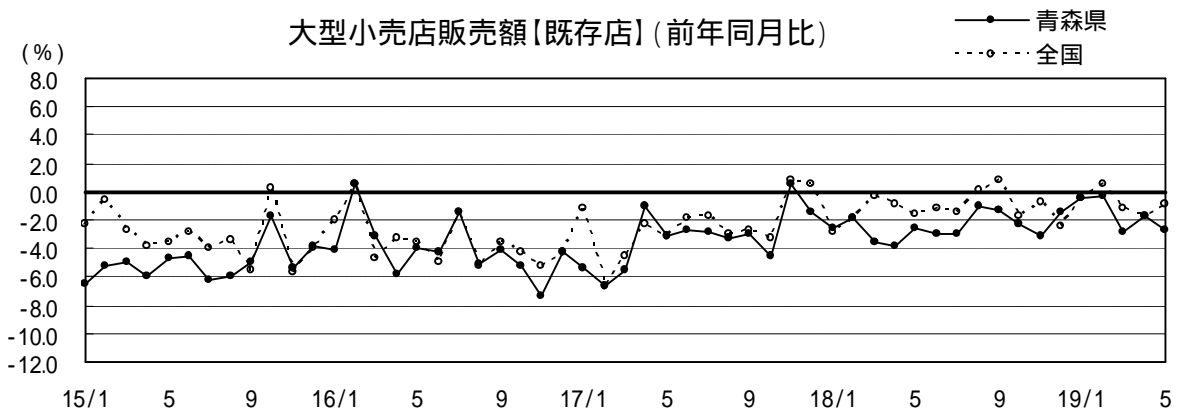
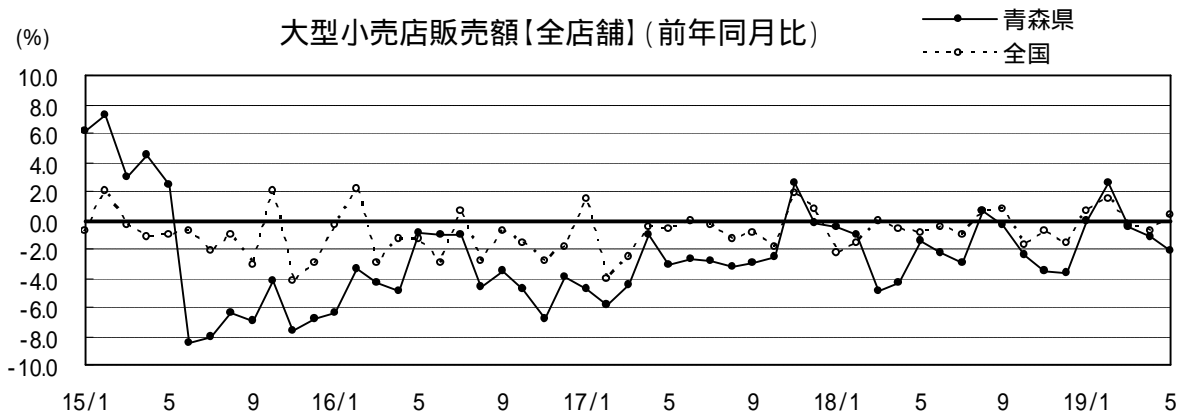
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

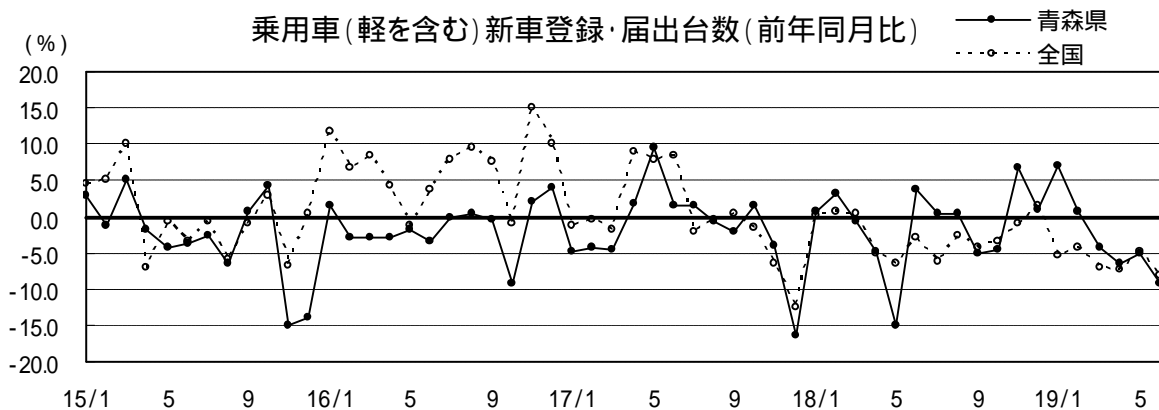
平成19年5月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが139億3千8百万円で前年同月比2.1%減と3ヶ月連続で減少、既存店ベースでは2.8%減と18ヶ月連続で減少となった。百貨店は、天候不順などから全般に伸び悩み、3ヶ月連続で前年を下回った。スーパーは、家電が好調だったものの、主力の飲食料品などが伸び悩み、4ヶ月連続で前年を下回った。

平成19年6月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,851台で、前年同月比9.2%の減となり、4ヶ月連続で前年を下回った。普通車が4ヶ月連続で、小型車が15ヶ月連続で、軽自動車が2ヶ月ぶりに、いずれも減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

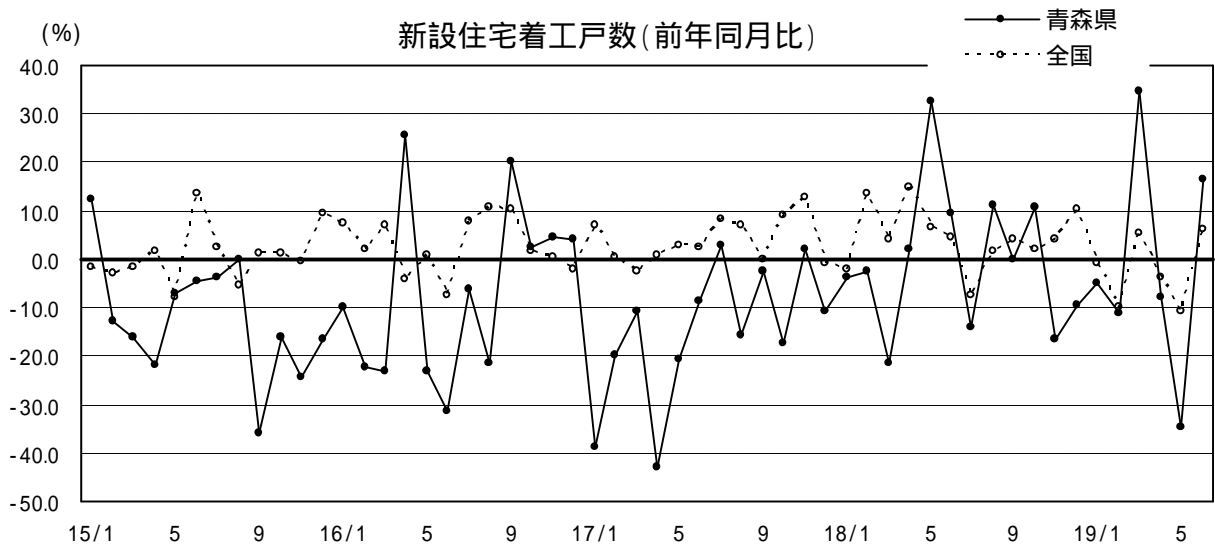
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2 - 5) 住宅建設

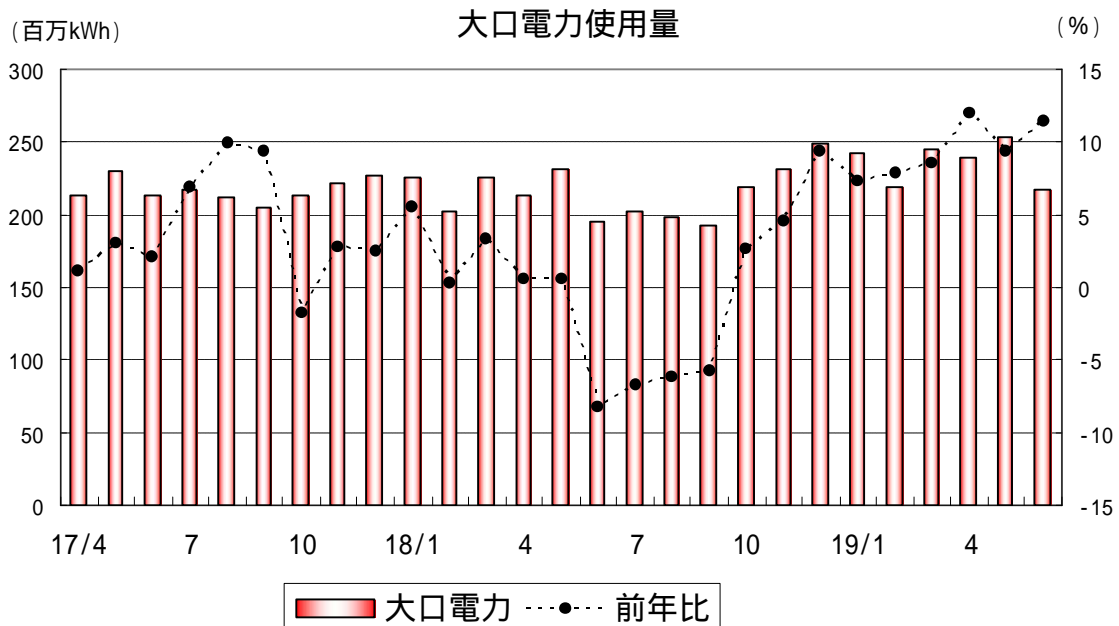
平成19年6月の新設住宅着工戸数は879戸で、前年同月比16.4%増となり、3ヶ月ぶりに前年を上回った。持家、分譲住宅が減少したものの、貸家が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2 - 6) 電力使用量

平成19年6月の大口電力使用量は2億1,792万kWhで、前年同月比11.4%増となり、9ヶ月連続で前年を上回った。鉄鋼、食料品などが稼働増となったことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

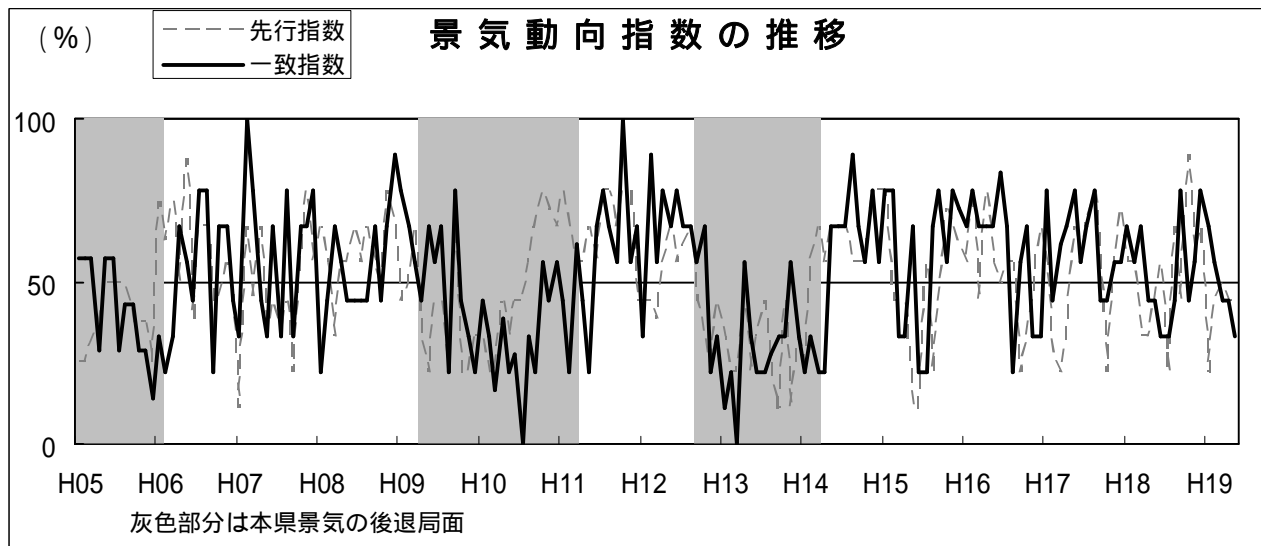
平成19年5月の青森県景気動向指数は、先行指数44.4%、一致指数33.3%、遅行指数66.7%となった。

先行指数は、2か月連続で50%を下回った。

一致指数は、3か月連続で50%を下回った。

遅行指数は、2か月連続で50%を上回った。

5月の一致指数は、労働、物流関連等の指標がマイナスとなったことから、50%を下回った。



個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中4指標がプラス）			
新規求人倍率（全数）	2か月連続	乗用車新車登録届出台数	3か月連続
入職率（製造業）	2か月連続	生産財生産指数	2か月ぶり
建築着工床面積	2か月ぶり	所定外労働時間指数	5か月連続
企業倒産負債額	2か月ぶり	新設住宅着工床面積	2か月連続
		中小企業景況D I	4か月ぶり
一致系列（9指標中3指標がプラス）			
電気機械生産指数	2か月ぶり	大型小売店販売額（既存店）	2か月ぶり
大口電力使用量	7か月連続	鉱工業生産指数	3か月ぶり
日銀券月中発行高	3か月連続	有効求人数（全数）	3か月連続
		総実労働時間数（全産業）	5か月連続
		海上出入貨物量（八戸港）	4か月連続
		東北自動車道IC利用台数	3か月連続
遅行系列（6指標中4指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月連続	輸入通関実績（八戸港）	7か月ぶり
常用雇用指数（製造業）	3か月連続	青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	5か月連続
1人平均月間現金給与総額	2か月連続		
単位労働コスト（製造業）	6か月ぶり		

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

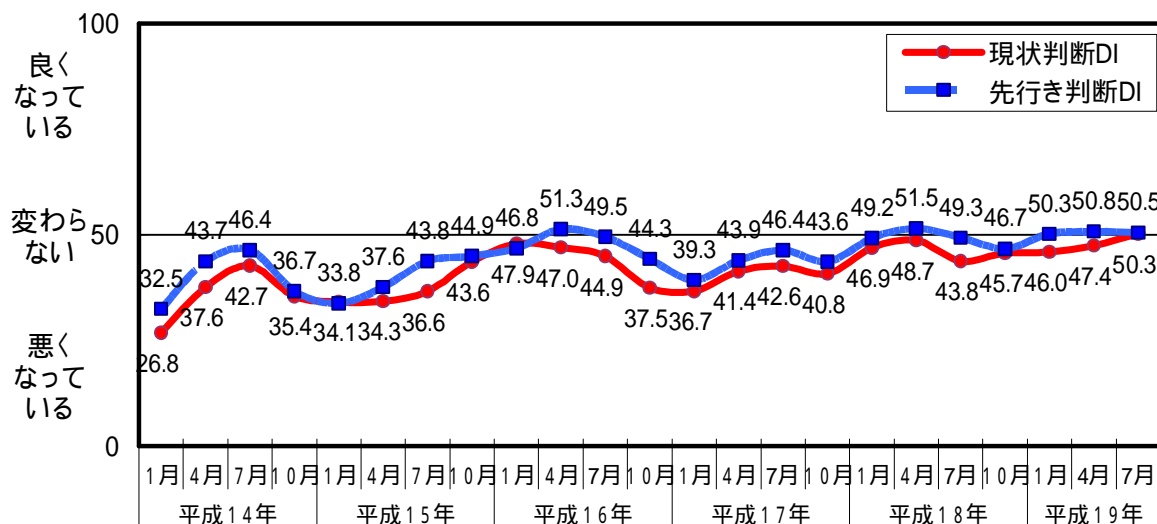
平成19年7月期の景気ウォッチャー調査は、7月2日～7月18日を調査期間とし、回答率99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは50.3で、前期調査を2.9ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは50.5で、前期調査を0.3ポイント下回った。

7月期は、景気の現状判断DIは4期連続で上昇して、調査開始以来初めて横ばいを示す50を上回り、先行き判断DIは前期を下回ったものの、3期連続で横ばいを示す50を上回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が8.9ポイント増加し、「変わらない」が7.7ポイント減少したことにより、全体では2.9ポイント増の50.3となり、調査開始以来初めて横ばいを示す50を上回った。</p> <p>判断理由をみると、税負担感の増加や消費マインドが冷え込む話題が多いという声が見られる一方、好天候による消費の好調や一部で客単価が上がったという声が見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、津軽、下北地区においてポイントが増加したが、県南地区ではポイントが減少し、東青、津軽の2地区において横ばいを示す50を下回った。</p>

3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が4.6ポイント減少したことにより、全体では前期を0.3ポイント下回る50.5となったが、3期連続で横ばいを示す50を上回った。</p> <p>判断理由を見ると、金利上昇や原材料の高騰による一部商品の値上げ、税負担増加が家計に及ぼす影響を懸念する声が多くある一方、好天候による消費拡大への期待や県内一部地域における地上デジタル放送の開始による需要に期待する声が見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、津軽地区においてポイントが増加したが、県南、下北地区においてはポイントが減少した。東青地区は前期と同じであった。津軽地区50.8、県南地区50.9、下北地区52.5と、3地区において、横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

3か月前と比べた景気の現状判断理由

天候等の影響で消費の動きがみえてきている。(旅行代理店=津軽)

ディナータイムにおいて、客単価が若干上がってきている。(レストラン=県南)

全体的にもまずまずですが、特に携帯電話向けの部分が好調です。(電気機械製造=津軽)

新車の売れ具合や、お客様の来店が少なくなっている。(乗用車販売=東青)

気温が高かったせいか、5月に比べ6月、7月とお客様が多く来店されています。しかし、買い方はやはり必要買いで、安くて良い物を探しておられます。無駄な物を買わないという動きから、景気が良い方向へ向かっているとは安易に判断できません。(一般小売店=下北)

新しい企画などチャレンジするというよりは現状維持、売れるものを確実に売っていこうという考えが垣間見える。当然その先は定番・安価なものしか動かない。(飲料品製造=県南)

来店の間隔が長くなってきている。約1ヶ月は延びています。定率減税や県市民税の割高感で様子見ているかもしれません。(美容院=県南)

消費者の購買意欲を削ぐ様な事件が続々と起きているので。(食料品製造=東青)

× 定率減税の廃止、住民税の負担増。(コンビニ=津軽)

3ヵ月後の景気の先行き判断理由

本年度は天気が良く、国産品の需要も高くなりそうなので、秋口の旅行者が増え、観光業としては期待がもてる。(観光名所等=東青)

八戸地区又は上北地区において「地デジ」が8月よりスタートするため、TVやそれに関連する商品等の売行きに変化があると考えため。(家電量販店=県南)

大手企業の業績向上に伴い、地方にも波及効果が現れ、景気浮上のきっかけになるのでは。(人材派遣=津軽)

住民税の値上げが家計を圧迫し、経済に悪影響が出そうだ。(ガソリンスタンド=津軽)

イベントには好天気になれば盛り上がりがあるかもしれない。自力ではよほどの工夫が必要。明るいニュースが欲しい。(一般飲食店=県南)

メインの夏祭りの時期に入るが、あまり期待しない方がいいのでは……。 (食料品製造=下北)

今のところはあまり変化が見られませんが、今後いろいろな商品が値上げになってきているので先行き不透明です。(卸売業=東青)

金利が上昇して、設備投資意欲が低下し、コストアップが全業種にわたって段々と悪影響を及ぼしてくると考える。(経営コンサルタント=県南)

× 予測するのが難解ではあるが、8月のねぶた祭りも、市内滞留が少なく通過型の記事を見るにつけ、県市町村に落ちる"金"も少なく、景気は底を突き破る事がない様に祈るだけなのかも。(タクシー=東青)

記号の意味: 良くなっている、 やや良くなっている、 変わらない、 やや悪くなっている、 ×悪くなっている

資料: 県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」